

綱日馬富士關前頭九枚目貴ノ岩關を鳥取巡業中の酒席にて毆打、貴ノ岩關被害届を提出するに及びて俄然世間の注目を集む。情報錯綜する中、貴ノ岩關の師匠にして相撲協會理事の貴乃花親方が協會の度重なる協力要請に對して沈黙を續くることに、大衆報道は次第に批判を強めつ、あるも、その論理に大きな違和感を感じ、本稿を起こしけるに、先程電網 zakzak にて同協會の前危機管理委員長の宗像紀夫氏の見解傳へられ、小生の疑問に共通する大なり。重複の譏りを敢てし陳べむは、かゝる事象への當然の論理が大衆報道にて無視せらるゝ、現状に覺ゆる危機感に他ならず。

執筆現在の確定的事實を列擧せば、日馬富士關を書類送検、一方貴ノ岩關の容態は依然不明なると共に、相撲の世界は番附序列をその秩序の基本とするを再確認す。即ち番附最高位の横綱が臨席（今回は三人同席）の酒席は假令和氣藹々の無禮講中にも一種の嚴肅さを要す。その席に暴力事件があり、その下手人が横綱たりてふ異常は、「殿中に御座る」ゆゑに切腹の故事を引くまでもなく、當人の引退のみにて決著し得べくもあらず。貴乃花親方の「頑なる」態度が「こゝは膿を出しきる」との決斷に基くとせば、一聯の行動にその主張を讀み取るを得む。

第一に識者頻りに被害届の提出を協會に報告せざるは組織の理事としてあるまじき態度なりとて貴乃花親方を批難す。慥かに一般的には然もありなむも、その報告は爾後全てに亙りて報告の上、指示を受くる義務の生ずるを故意に無視するにあらずや。報告を受けたる上級幹部より、例へば被害届の取下げ、示談の説得などの指示を受けば、事態の隱蔽を懸念しつゝも従はざるを得ざるべし。「膿を出しきる」と決意しつる上は、警察の捜査完了まで沈黙を守るも諒解せらるべし。

第二に親方は警察の捜査完了後の協力を明言す。然るを書類送検後も沈黙するをもて約束違反と難ず。これに就き前記宗像氏によれば、送検は警察處理の完結にあらずして、檢察より受理後なほ多くの捜査を求めらるゝ、多く、起訴等の處分決定を待つべしとのことなり。これ小生の初見なるも識者知らざる筈なかるらむ。

第三に絃上の理由により協會は未だ貴ノ岩關から事情を聴取する能はざるに、危機管理委員會は中間報告として同力士の當日の行動、態度に就き論評す。かゝる發表は通常の記者會見ならば記者團より痛烈なる批判質問集中すべからましと益々大衆報道への不信を強む。

第四に傳へらるゝは貴乃花親方、相撲の文化的側面を重視し、特に神事の一環としての相撲奉納の意義を強調すと云々。これにも識者恰も時代遅れの發想にて協會と對立すと解説す。然れど相撲の文化を實踐傳承するは横綱及びその經驗者の唯一最高の務めならずや。同親方これに相撲道と名附けて門下の力士を指導するは首肯すべき點多しと言ふべし。徒らに興行としての相撲に明け暮れ、觀客の出入りに右顧左眄すべき由もなし。

最後にモンゴル力士會に就き、若乃花親方は夙に弟子筋に参加の禁止を申し渡せり。眞の親睦は土俵上の對決により生まると考ふなり。小生は同會に土俵上の疑惑は現状無しと信ずるも、これを「制度」と見る時、その曲解による悪用を憂ふ。例へば慶弔金の授受など、本來相撲協會の規約に包含すべきものなり。會て美濃部都知事、老人醫療無料化を實現するも、弊害百出せるを想起す。最近與野黨共に頻りに無償政策を打上ぐ。されど制度の運用は性善説によるべくも、その設計には性惡説による嚴密の檢證を要するを忘れば、國を危ふくすること肝に銘ずべし。況して近々行はむとする憲法・典範の改正に於てをや。

（平成二十九年十二月十七日受附）